2026年度　玉川学園中学部　入学試験問題

第１回

国　語

・試験開始までこの問題冊子を開いてはいけません。
・答えは必ず解答用紙に記入しなさい。
・字数制限のある記述問題の解答では、句読点・記号なども一文字分として数えます。

受験番号
E□□□□

氏名	

一　次の――線部のカタカナを漢字で答えなさい。また、必要があれば、ひらがなで送りがなも付けて答えなさい。

① キソク正しい生活を送ろう。
② この迷路はフクザツなつくりをしている。
③ 二人の考えはタイショウ的だ。
④ 需要（じゅ）とキョウキュウについて習った。
⑤ この問題は自分でカイケツしたい。
⑥ けがのケイカを見て参加を決めよう。
⑦ 雨で運動会がエンキになった。
⑧ この犬はしっかりとクンレンを受けている。
⑨ 日光をアビル。
⑩ 兄は銀行にツトメている。

二　次の――線部の読みをひらがなで答えなさい。

① この組織の活動はすばらしい。
② 討論番組を見る。
③ クッキーの生地を買う。
④ この場所に派遣されてきた。
⑤ 町興しに参加する。

三　次の文から漢字の間違（ちが）いを一文字探し、ぬき出して正しい漢字に直しなさい。

〈例〉　少しでも成積を上げようと必死に勉強した。
　　積　→　績

① 昨年買ったエアコンの保障書を大切にしまっておいた。
② 私が実行委員長になることが確庭した。

四　次の五つの語句を、五十音順にのる国語辞典で調べ、早いものから順番に並べたときに、三番目に位置するものはどれですか。記号で答えなさい。

ア　確認　　イ　カプセル　　ウ　開設　　エ　仮説　　オ　環境

五　次の――線部のカタカナを漢字に直したとき、その熟語と同じ構成の熟語を後の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①　彼(かれ)の失礼な態度にリップクした。
②　みんなの気持ちがコオウして、一つになった。
③　友達にジンアイの心で優しく接した。
④　フソクの事態が起きてもあせらず行動しよう。

ア　道路　　イ　農協　　ウ　仮定　　エ　発声
オ　無理　　カ　民営　　キ　軽重

六　①、②の□に漢字を入れると、慣用句やことわざを用いた文になります。□に当てはまる漢字を答えなさい。

①　みんなでもり上がっている時に、彼の一言が□を差した。
②　彼らのけんかのおかげで、ぼくが□□の利を得た。

七　次の文の（　　）に入る四字熟語をア～オの中から選んだとき、余るものを記号で答えなさい。

(1)
①　どちらの考え方にも（　　）があり、選ぶのが難しい。
②　このような（　　）の出来事に、だれもが驚(おどろ)いた。
③　彼は（　　）な学生として、周囲から信用されている。
④　彼の考えと私の考えは、結局（　　）でほぼ一緒(いっしょ)だった。

ア　品行方正　　イ　一長一短　　ウ　大同小異
エ　日進月歩　　オ　前代未聞

(2)
①　先生はいつも（　　）な態度で、私たちに接してくれる。
②　演者が（　　）に割り振(ふ)られたおかげで、劇は大成功だった。
③　父は世界中を旅しており、まさに（　　）の生活だ。
④　（　　）で、当事者には見えない問題点が明確になった。

ア　十人十色　　イ　南船北馬　　ウ　岡目八目
エ　公平無私　　オ　適材適所

八　次の――線部は、文の成分の何に当たりますか。語群から選び、それぞれ記号で答えなさい（記号は何度使っても構いません）。

私たちの①生活は、自然のめぐみで成り立っている。②だから少しでも自然が喜ぶように③ゴミを拾ったり、手入れをしたり、気づいたことをやっていきたい。今日は一日庭の雑草を④取った。⑤さあ、明日もがんばろう。

語群　ア　主語　　イ　述語　　ウ　修飾語（しょく）
　　エ　接続語　　オ　独立語

九　次の中で――線部の表現が正しく使われていない文をすべて選び、番号で答えなさい。

(1)
① 私は転んでもすっくと立ち上がれる強い人になりたい。
② 二の足をふむ気持ちがみなに広まったので、勢いがつき勝利した。
③ 妹のわがままな行動には、本当に閉口したよ。
④ 毎回彼は的を射た発言をするので、全く評価されていない。
⑤ 予想外の出来事に、子どもたちはみなけげんな顔をしていた。
⑥ 私は兄に「おつかれさま」とあしらいの言葉を言った。

(2)
① テストがこんなに難しいなんて、よもや予想通りだった。
② 夜の七時に帰れば、家でそのドラマを見られる。
③ くもり空なので、たぶん午後は雨が降るだろう。
④ 田中様、こちらではこのカードはご利用になれません。
⑤ 私は何をなさったらよろしいでしょう。
⑥ 明日は一日中、母は家におります。

十　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

まず「よく生きる」というときの「よい」という言葉の意味について考えてみたいと思います。よい・悪いという判断をわたしたちはどのようにしているのでしょうか。そしてこの①「よい」「悪い」という言葉にどういう意味を込めているのでしょうか。

具体的な例で考えますと、［　a　］、走っていてころび、泣いている小さい子どもに対して、少し年長の子が助け起こし、なぐさめているのを見れば、誰でもそれを「よい」行為だと言うでしょう。逆に、子どもたちが子犬に石をぶつけたり、棒でたたいたりしているのを見れば、誰でもそれを「悪い」と言うと思います。

その場合、犬を棒でたたくという行為そのもののなかに、わたしたちが「悪い」と判断する原因になるものが含まれているのでしょうか。［　b　］、棒でたたかれた子犬が悲しげに泣くのを見れば、それが原因になってわたしたちが②その行為を批判するとも考えられます。［　c　］単純にそうだと言えないかもしれません。たとえば③猟師が農家の人たちから依頼を受けて、農作物に大きな被害を与えているイノシシを銃で撃ち殺すような場合、イノシシは大きな痛みや苦しみを感じるにちがいありません。そのイノシシには子どもがいるかもしれません。しかしその行為を「悪い」という人は少ないと思います。わたしたちはどうも動物を殺める行為そのもののなかに「悪い」という判断の根拠を見ているわけではないようです（もちろん動物の*屠殺そのものを「悪い」とみなす人もいます）。

それでは逆に、わたしたちは、犬を棒でたたくという行為そのもののなかには何も「悪い」ものがないにもかかわらず、心のなかにたまた ま憤りのようなものがわきでてきたために、その行為を非難したのでしょうか。どうもそうでもないようです。多くの人がこの行為を「悪い」と判断したことには、［　d　］理由があるように思われます。それはわたしたちの道徳観に関係していると言ってよいでしょう。

わたしたちは成長する過程で、ある時代に、ある社会のなかで、共通に価値あるものと認められている行為の基準を自分自身のなかに受け入れていきます。そのようにして自分の道徳観を形成していきます。しかしもちろん、すべての人がまったく同じ道徳観をもつに至るわけではありません。社会のなかにある基準をそのまま自分のなかに埋め込んでいくのではなく、自分が経験したことや考えたことをもとに、どのように生きていくべきかを自分なりに考え、その基準を修正して、自分の道徳観を作りあげていきます。場合によっては、社会のなかで広く認められている基準に反対して、それを受け入れないということもあるでしょう。

しかし、そこには共有されるものもあります。その共有される基準はどのようにして作られたのでしょうか。

この問題について考えるヒントが、*プラトンが著した『プロタゴラス』という対話篇のなかにあります。そこにプロメテウスとエピメテウスの話が出てきます。ともにギリシア神話に登場する神で、兄と弟です。

この話は神話に基づいていますが、『プロタゴラス』ではプラトン独自の脚色がなされています。それによりますと、ギリシアの神々がプロメテウスとエピメテウスに、地上に存在する動物すべてに、それらにふさわしい能力や装備を与える仕事を任せました。そこでエピメテウスはそれぞれの動物に、たとえば走る速さや、大きな力、空を飛ぶ能力といったもの、あるいは体温を保つ毛や、身を守る硬い皮膚などを与えました。ところがすべての能力や装備を与え終えてから、人間には何も与えていなかったことに気づきます。

そこにプロメテウスがやってきて、思案したあげく、神々のところから物を作る知恵（技術的な知恵）と火とを盗みだしてきて、人間に与えました。しかしそれだけでは人間は獣に対抗できず、生きていくことができなかったので、集団を作りました。いったんはそれでうまくいったのですが、しかし、人間たちはお互いをだましあったり、殺しあったりして滅亡しかけました。それを見た④ゼウスが心配して、人間に「つつしみ」と「いましめ」を与えたことにより、ようやく人間は絶滅の危機を免れたというのです。

神話をもとにした話ですが、*含蓄のある話です。自ら抑制する心と、おきてを守る感覚とがなければ、人間は生き残ることすらできないというのは、現代のわたしたちにも理解できる話です。

わたしたちが生きていく上で、自分の欲求を追求していくことはとても大事なことです。しかし、他の人もまた欲求をもち、それが満たされることを追求しています。他の人と生きていくためには、まずそのことを理解しなければなりません。そして自分の欲求の追求と、他の人の欲求の追求のあいだでバランスをとっていかなければなりません。

さらに、他の人とのあいだでよい関係を築いていくためには、単に他の人の欲求に配慮するということだけでは十分ではないでしょう。自分もそうですが、他の人もまた、ただ生きているだけではなく、自分のもっているさまざまな可能性を実現したいと願っているでしょうし、自分の能力を社会のなかで発揮したいと望んでいるにちがいありません。そうしたことがお互いにできるようにするにはどうすればよいか、そうしたことをわたしたちは考えざるをえません。

先ほど言いましたように、同じ時代に生まれた人であっても、その道徳観には違いがあります。身近な例で言えば、電車に乗ったとき、席をお年寄りや体の不自由な人に必ず譲る人もいれば、優先席であっても早い者勝ちだと考える人もいます。正直であることを*モットーにしている人もいれば、他の人をだますことを何とも思わない人もいます。

しかし、同じ時代に、また同じ社会で育った人々のあいだには、共有されるところも多くあります。倫理というのは、お互いに共有されているという意識があってはじめて成立するのであり、共有されていなければ倫理とは言えません。そのためにわたしたちは自分が望ましいと考えるルールと他の人が望ましいと考えるルールをつきあわせ、お互いに認めうるものを共通のルールとしていきます。できるだけ多くの人が認めるような、そしてどのような事態にも対応できるようなルールを模索し、

その結果［　Ⅰ　］されるようになったものが倫理と言えるでしょう。

こうしてでき⑤あがったルールをわたしたちは自分の道徳観のなかに内面化していきます。そしてそのルールに従ってある行為を「よい」と判断し、ある行為を「悪い」と判断していきます。そのとき自分の道徳観を一方的に主張するのではなく、相互に互いの判断を確認しながら、自分自身の道徳観を形成していきます。そのことによって共有される部分が自ずから生まれてきます。そのために、多くの人が同じ行為を――たとえば泣く子に手を差しのべようとする行為――を「よい」とし、逆に、子犬を棒でたたくような行為を「悪い」と判断するのです。

しかしそもそもなぜ泣く子に手を差しのべようとする行為が「よい」のでしょうか。なぜわたしたちはそれを望ましいと考えるのでしょうか。わたしたちはここでもう一度、先に立てた問いに戻らなければなりません。⑥なぜわたしたちは他者を思いやる必要があるのでしょうか。なぜそれを「よい」と考えるのでしょうか。なぜそれが「よく生きる」ことにつながるのでしょうか。

たしかに多くの人が共有している道徳観のなかに、困った人を助けることはよいことだというものがあります。でも、なぜ助けあうことが「よい」ことなのでしょうか。すでに述べたように、自分のことだけを考えていたのでは、うまく人間関係を築いていくことができないからだとも考えられます。それに対して、別にうまく人間関係を築けなくてもかまわない、むしろ自分自身の利益を優先した生き方をしたいという人がいるかもしれません。程度の問題ですが、そういう生き方も当然考えられるでしょう。しかしそういう態度を貫けば、おそらく多くの＊軋轢を経験しなければならないでしょう。他者に配慮するのは、それを避けるための知恵だとも考えられます。

この問題、つまりなぜわたしたちは他者のことを思いやらなければならないのか、なぜ倫理というものがあるのか、こうした問題をめぐって、人々は長い歴史のなかでさまざまに議論してきました。

一つの考え方は、先ほど紹介したプロメテウスとエピメテウスの話のなかにすでに示されています。そこでは、人間は基本的に利己的であり、自分の欲求を貫き通すために他人をだましたり、お互いを殺しあったりして滅亡してしまう危険性をかかえていると考えられていました。

たしかに、⑦人間はその本性において悪であると言えるかもしれません。これは古くから根強くある考え方です。人間はかぎりない欲望をもっており、そのために必然的に他の人と衝突します。また生まれつきねたみや憎しみの感情をもっており、すぐにお互いを傷つけあってしまいます。このようにして社会が混乱におちいってしまうと言われてきました。そのために人間はおきてを作り、それを守ることで、やっと社会の安定を図ることができた、このおきてこそが倫理であるという考え方が一方であります。

それに対して、人間はその本性において善であるという考え方もあります。人間は他人の不幸を見逃すことができず、困っている人がいれば、自ずから手を差しのべる、そういう存在なのだという考え方です。

たしかにわたしたちは、たとえば身寄りのない小さな子どもが一人で路頭に迷っていれば、何とかしてやりたいと思いますし、天災や事故で家族をすべて失った人がいれば、その人に心から同情します。そういう気持ちは誰もがもっているように思います。他者を思いやり、その苦しみに寄り添うというのは、外から強いられるのではなく、内から自ずとわきでてくる気持ちであり、倫理はそれに基づいているという考え方も成りたつように思います。

そういう点から興味深いのは、近年、発達心理学などで、乳幼児がもつ共感力や利*他的行動に関して多くの研究成果が発表されていることです。たとえばアメリカのエール大学で心理学を教えるポール・ブルームという人がたいへん興味深い研究を行っています。ブルームは著書のなかでエール大学乳幼児研究所で行われたいくつかの実験を紹介していますが、そのなかに次のようなものがあります。

ある人形が箱のふたを開けようと苦労しているときに、それを助けてくれる人形と、逆にそれを邪魔する人形が登場する劇を生後五か月くらいの赤ちゃんに見せると、その赤ちゃんたちは手助けしてくれる人形の方を好むという結果が出たというのです（ポール・ブルーム『ジャスト・ベイビー！赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』ＮＴＴ出版、二〇一五年）。

生後五か月くらいの赤ちゃんですから、当然、まだ自分ではよい行動も悪い行動もできません。そうであってもすでに、他の人を邪魔する行為よりも、他の人を助ける行為を好むというのです。このような事実から、人間が生まれながらに［　Ⅱ　］という結論が引きだせるのではないかということをブルームは主張しています。彼が行った実験は、倫理の起源を考える上で、たいへん興味深い視点を提供してくれています。

ただ、子どもは成長する過程で、親や周りの人たちからの影響を受けながら、自分自身の道徳観を形成していきます。そして自分でも考えながら⑧それを修正していきます。もともと利他的な性格をもっているとしても、⑨それがそのまま保持されるかどうかは、人によって異なると言わざるをえないでしょう。

さらに、たとえ自分のなかに利他的な性格があるとしても、わたしたちはさまざまな欲求をもって生きています。それらを断念することは容易ではありません。たとえばマザー・テレサのように、自分がもっているものをすべて他者のために提供するということは簡単にはできません。わたしたちはつねに利己と利他のはざまで生きていると言ってもよいでしょう。それがわたしたちの現実なのではないでしょうか。

また利他、あるいは愛他といっても、まず最初に思い浮かべるのは、家族など身近で大切な人たちです。もし彼らが病気になったり、傷つけられたりしたら、とても深い悲しみを覚えます。しかし、それは愛他というよりも、自愛の延長なのではないかと言う人もいるかもしれません。

たしかにそういう見方もあるでしょう。しかし、わたしたちはそこでとどまらず、それ以外の人の苦しみや悲しみをも理解することができま

す。そしてそれをともに苦しみ、悲しむことができます。重い病気に苦しむ人とも、地震や津波で家族を亡くし、深い悲しみのなかにある人とも心のなかでつながっていきます。そうした人のために何かできることはないかと考えます。

また、自分や家族だけでなく、すべての人がさまざまな可能性をもっていることに思いを馳せます。彼らもまた自分の可能性を発展させ、社会のなかで実現したいと願っています。

ここから出発して、わたしたちはこれまでも、自分の周りにいる人だけでなく、すべての人をかけがえのない存在とみなし、お互いに尊重しあおうと考えてきました（「人間の尊厳」という考えはここから出てきたと言えます）。この気持ちが倫理の基礎にあると考えることができます。

（『はじめての哲学』藤田正勝〈岩波ジュニア新書〉による）

〈注〉

＊屠殺……肉や皮を取るために動物を殺すこと。
＊プラトン……紀元前のギリシャの哲学者。
＊含蓄……深い意味がこめられていること。
＊モットー……常に心にとめていましめとすることば。
＊軋轢……仲が悪くなること。
＊利他的行動…自分の利益よりも他人の利益を優先する行動。

(1) ――線部①で、「よい」「悪い」という判断は、わたしたちの何に関係していると筆者は述べていますか。文中から三文字でぬき出して答えなさい。

(2) ［　a　］～［　d　］に当てはまる言葉の組み合わせのうちで、正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　a　たとえば　b　あるいは　c　しかも　d　やはり
イ　a　たとえば　b　かならず　c　けれども　d　たしかに
ウ　a　たとえば　b　たしかに　c　しかし　d　やはり
エ　a　やはり　b　たしかに　c　しかし　d　たぶん
オ　a　やはり　b　かならず　c　しかも　d　たぶん

(3) ――線部②「その行為」とはどういう行為を指していますか。「行為」につながるように十文字以内で答えなさい。

(4) ――線部③で、イノシシを撃ち殺す例が出されるのは、どのようなことを説明するためですか。それを説明した次の文の［　　］に当てはまるように三十文字以上四十文字以内で答えなさい。

犬を棒でたたくという行為そのもののなかに、［　　］ことを説明するため。

(5) ――線部④「ゼウスが心配して、人間に「つつしみ」と「いましめ」を与えた」とありますが、この「つつしみ」と「いましめ」は道徳観の形成にどのように関わっているかを次のようにまとめました。［A］には文中から十七文字でぬき出し、［B］には文中にない二文字の熟語を考えて答えなさい。

ゼウスが与えた「つつしみ」と「いましめ」は、人間に［A（十七文字）］を与えることで、互いに配慮しながら［B（二文字）］しうる道徳観の土台を形づくったと言える。

(6) ［　Ⅰ　］に入る二文字の熟語を文中からぬき出して答えなさい。

(7) ――線部⑤「できあがったルールをわたしたちは自分の道徳観のなかに内面化していきます」とありますが、その「内面化」とはどのようなことを意味していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　社会で共有化されたルールを覚えて、他の人に聞かれたときにうまく説明できること。

イ　社会で共有されたルールを、自分の心の中に取り込み、行動や判断の基準にすること。

ウ　自分が考えた道徳観を社会全体に広め、自分の世界観の中に他者をとりこむこと。

エ　他の多くの人の道徳観に反対せず、そのまま受け入れ、自分の行動や判断の基準にすること。

オ　他の多くの人が考えたルールを、自分なりに解釈し、納得した部分だけを自分の基準にすること。

(8) ――線部⑥「なぜわたしたちは他者を思いやる必要があるのでしょうか」とありますが、その理由に関して次のようにまとめました。［　　］に入る言葉を文中から十文字以内でぬき出して答えなさい。

> 他者を思いやることで、他者との軋轢を避け、［　　］ことができるから。

(9) ――線部⑦「人間はその本性において悪である」という考えの根拠（きょ）として示されているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人間は自分自身の利益を最優先にして生きることを好む存在である。
イ　人間は天災や事故にあった人を見れば、自然と心から同情する存在である。
ウ　人間は互いをだまし合い、殺し合う危険を避けることができる存在である。
エ　人間は他人の不幸を見過ごせず、自然と手を差し伸べる存在である。
オ　人間は自発的におきてを作り、進んでそれを守ろうとする存在である。

(10) ［　Ⅱ　］に入る言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人形の劇を理解している
イ　人間の本性を理解している
ウ　行動力を持っている
エ　道徳観を備えている
オ　善悪の起源を知っている

(11) ――線部⑧⑨の「それ」は何を指していますか。それぞれ十文字程度で文中からぬき出して答えなさい。

(12) 筆者が考える理想的な社会を次のようにまとめました。［A］・［B］に当てはまる言葉を指定された文字数で文中からぬき出して答えなさい。

> 他者の苦しみや悲しみを理解し思いやれる［A（三文字）］を持ち、心でつながることで、人々をかけがえのない存在として［B（二文字）］し合う社会。

(13) 本文の内容にふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア わたしたちがある行為を「よい」や「悪い」と判断するとき、その原因は必ずその行為そのものの中にある。

イ 農作物を荒らすイノシシを猟師が撃つ場合、多くの人はその行為を「悪い」とは考えない。

ウ 倫理は、各人が自分だけの判断で「よい」「悪い」を決めれば成立する。

エ 人間は他人の不幸を見過ごすことができないため、社会の安定にとっておきてが必要だ。

オ わたしたちはつねに利己的な欲望を完全に捨て去り、純粋に利他的な行動だけを選んで生きている。

カ ブルームの実験は、赤ちゃんが自らの意志で利他的な行動を取れることを証明した。

キ 「人間の尊厳」という考えは、身近な人の可能性だけでなく、すべての人の可能性を尊重しようとする態度から生まれる。

(14) ═══線部で筆者は「わたしたちはつねに利己と利他のはざまで生きている」と述べています。本文で挙げられた具体例を参考にしながら、自分の身近な具体例を用いてこのことを説明しなさい。